

令和5年12月 区長記者会見【テキスト版】

高際区長

みなさまおはようございます。

いつも大変お世話になっております。ありがとうございます。

今年最後の定例会見となります。どうぞよろしくお願いいたします。

最初に、私どもの取り組みの事業でいくつかご報告させていただきます。

一つ目は、区民による事業提案制度のその後の状況でございます。

前回、一人3票までということでご投票をいただき、1,670票が集まりまして、これからのように事業化していこうかと検討する対象を6つに絞りました、というご報告を申し上げました。その中間状況でございます。

前回発表させていただいたこの6つの所管部は記載の通りでございまして、投票数順に記載しています。

公園に日避けを作ってほしいということで、「公園に日避けはないんですか」というご質問をお受けしておりますけれども、もちろんきっちりついているところもありますけれども、区内163の公園で、特に今年の殺人的な暑さの中で、お子さん連れのお母様、お父様から「もっと日避けをつけてほしい」、ものすごく暑い日は遊べないかもしれませんけれども、「遊んだときにちょっと逃げ場となるような日避けをつけてほしい」というお声が一番多かったところでございます。

それから、「空き店舗、商店街には空いているところがある。それは見かけ上もあんまりよくないかもしれないし、せっかくいいところにあるんだから、もっと活性化してほしい」というようなお声など、6つを選ばせていただきました。実際に事業化するにあたっては課題が色々ありますけれども、何とか区民の皆さまのお気持ちに答えられるように、それぞれの担当部局でうんうんうなりながら、より良い新規事業の策定に向けて取り組んでいるところでございます。

先日から来年度予算案に対する区長査定が始まりまして、私が各事業をチェックしております。その中でもポツポツと出てきておりますので、年内にはこれはこんな感じで事業化ができるかな、これはちょっとこういう課題が、もう少し練らなきゃいけないなという判断をしているということでございます。

そして2月に来年度の予算案を発表させていただきますけれども、そのときにはこちらがどういう形になるか、どんな形で入ってくるかを楽しみにしていただければと思います。

実際、区民の皆さまからはこういう事業名で、ご提案いただいていますけれども、区で色々検討する中で、事業名、あるいはご提案の趣旨を生かしながら展開の仕方はより具体的に私たちの目線でも見させてもらい、また投票のときにプラスでいろんなご意見も頂いていますので、そうしたことを踏まえて、新規予算に結び付けたいと思っております。

2件目でございます。

未来としまミーティングを、昨日初めて開催しました。

私は区長になるときに、区民の皆さまの声をどんどん受け止めたいと、どんどんお聞かせいただきたいということで、3つのことをやりたいという話をしておりました。

1つ目が「子どもレター」です。

子どもレターは、直近で約400通いただいております。

それから、今申し上げた「事業提案制度」が2つ目です。こちらは233のご提案をいただきました。そして区民の声を寄せいただきたい、直接伺いたいという、3つ目がこの「未来としまミーティング」でございます。これはタウンミーティングでございます。

来年度末に、豊島区基本構想・基本計画の策定を1年前倒しで行いますので、そこに区民の皆さまの生のお声・ニーズを大いに反映したいということで、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

1回目は教育をテーマに行いました。選挙でいろんなところを回って、いろんな話を聞くときにも圧倒的に教育の要望が多かった。教育そのものもそうですけれども、学校の環境ですとか、またいじめや不登校だとか、そうした子どもを取り巻くいろんな課題についてのお話をたくさん伺いましたので、未来としまミーティングの最初は、教育でやりたいと思っておりました。昨日は1回目、そして今後ですね、1月15日、28日と3回続けて教育をテーマに未来としまミーティングを行います。

1月15日は西のエリアということで、長崎小の体育館、28日は東のエリアで西巢鴨小学校の体育館で実施いたします。昨日は庁舎5階の会議室で行いました。27名の保護者の皆さまにお越しをいただいております。小学校の保護者の方が20名、中学生の保護者の方が7名ということで、2グループに分けて意見交換をさせていただきまして、本当にたくさんのご意見をいただいております。

18時から19時半の予定でしたけれども、20時15分ぐらいまでやりましたかね。もういろんなお話がたくさんあって、大変参考になりました。

三つ目でございます。

三つ目はですね、かわいいキャラクターが出ておりますけれども、子どもからの相談を受ける方法をどんどん増やしたいと思っております、今度はアバターによる子どもの相談体制を作りたいと思っております。

これはのちほどまたキャラクターが出てきますけれども、『なやミミちゃん』と『すいトリくん』というのを、職員が作りました。お手元にお配りしていますが、こういう相談カードを作りまして、小・中学校の子どもたち全員に渡しております。この『なやミミちゃん』と『すいトリくん』がかわいいですから、その影響もあるのか、相談件数が増えております。

今度はこの『なやミミちゃん』と『すいトリくん』をアバター化しまして、もっと子どもたちの相談のハードルを下げたいと思っております。

前のページに戻っていただきますが、株式会社SPINさんというところと協力しております。SPINさんは、アバターコンシェルジュというスキルを持っているところで、そことコラボします。ライブエンターテイメント事業などを展開されているところで、既にバレーボール関係で、アバターのキャラクターが動いて案内するという実績もあるということで、今回試行的に始めることにいたしました。

具体的には、次のページでございます。これはちょっと背が高いですけど、子ども用にはもうちょっと小さめの設備にしようと思っておりますけれども、『なやミミちゃん』と『すいトリくん』が出てきて、子どもには見えないですけど、向こう側には相談員がいます。相談員の動きで『なやミミちゃん』も動いたりするということになっています。

なので、大人に相談するのはちょっとハードルが高い、この『なやミミちゃん』が相手だったら困っているということが言いやすいんじゃないかということで、このアバターにチャレンジしようと思っております。

遠隔操作になりますので、相談員はどこからでもこのアバターになれます。

それから、なんと言ってもやっぱり子どもの相談のハードルが下がるんじゃないかということで非常に期待をしております。

最初は、2月に設置しました児童相談所の中にある一時保護所の子どもたちに使ってもらおうと思っております。一時保護所の中には当然職員がいて、寄り添っていろんな相談を

受けているんですけれども、親元から離されて、一時保護所にいる子どもたちにはいろんな不安もありますし、知らない子も一緒に入ってみんなで生活しているので、いろんなストレスもあるかもしれないということで、児童相談所の職員じゃない『なやミミちゃん』に、何かあれば言ってほしいということで、一時保護所からスタートしようと思っております。

すいません、もう1回1ページ前に戻してもらいますけれども、一番下に書かせていただきました。今、中高生センタージャンプ東池袋がリニューアル工事中でございます。

2月1日からオープンしますけれど、そのお披露目会を3月2日に行って、皆さんにも広くご覧いただきたいと思っています。その3月2日のリニューアルオープンイベントのときにこのアバターをデビューさせたいと思っておりますので、ぜひ見に来ていただきたいと思っています。

次のページの右下に、啓発による効果をお示しました。これが先ほど申し上げた、『なやミミちゃん』と『すいとりくん』のこのカードが登場して以降の相談件数の増です。7月にですね、特に夏休みが明ける直前でしょうか、学校行きたくない、不登校になってしまう子、あるいはもう残念ながら自殺しちゃいたいと思ってしまう子が出てきますので、夏休み前の7月にこの『なやミミちゃん』のカードを、区立小・中合わせて7500名に配布しました。

そうしましたところ、夏休み明けの9月には前年同月比の3.8倍、前月比で7.3倍の相談が寄せられております。

それでもまだまだ悩みを吐き出せていない子はたくさんいると思いますけれども、この『なやミミちゃん』というキャラクターが相談のハードルを下げる一つのきっかけになったかなと思っています。

次のページですが、このキャラクターは職員が作り、どういう名前がいいかについては子どもたちが決めました。区立小学校の4年生から6年生と、中学校の皆さんに名前を選んでもらって決めたキャラクターでございます。これから子どもたちに接する場面では、どんだんこのかわいい子たちに登場してもらいたいと思っています。

次のご報告は、子育て世帯の見守り訪問でございます。

こちら前回、補正予算の計上でご報告しましたものが、いよいよ2月からスタートいたします。前回も申し上げましたけれども、生まれた直後は保健師がお家を訪問して、どうですかというような相談に乗ります。そして、1歳になるとお誕生日おめでとうございま

すということで、子ども家庭支援センターがプレゼントをお届けします。また、3ヶ月などは赤ちゃんの健診があります。

ところが4か月から11ヶ月の間が、ぽっかり空いてしまっておりましたので、この期間も途切れないで、お母さんと赤ちゃんを見守っていきたいということで始める事業です。対象は毎月1500人を想定しております。研修を受けた見守り支援員がお宅に訪問して、お母さんの様子、赤ちゃんの様子、何か困っていませんかとお話を伺って、また伺った時には育児支援品を選べる電子ポイントもお渡しして、3000円相当で好きなものを選んでご購入いただけるという仕組みでございます。

1月15日に対象となる方全員にご案内をお出しします。スマホでピピッと登録ができます。登録いただいた方は即予約もできます。2月1日から訪問をスタートしたいと思っております。

具体的な流れは次のページにお示しをしています。これと同じようなものをご案内でお送りする予定でございます。ご案内に入っている2次元コードを読み取っていただいて、パスワードを入力すると、もう私たちとお母さんが繋がります。

そして、お伺いした時に気軽にいろんなことをご相談いただきまして、そうしますと見守り訪問が終わりましたということで、後日この方のマイページに電子クーポンが送られます。そこからご購入いただくということで、実際に買ってもらえる商品は8000点の中から選んでいただけます。もちろんオムツもあれば液体ミルクもありますし、お母さんが使う母乳パッドとか、いろんなものを選んでいただけることになると思います。選んでいただけますとご自宅に無料で、後から届くという事業を4ヶ月から11ヶ月の間、毎月実施をしたいと思っております。

訪問日はご予約いただくんですけども、2回目以降は大体3週間以降の日のお好きな日を選んでいただいて、予約をしていただきます。また誰が行くんだということなんですけれども、温かく見守って寄り添っていただける方と思っております。こちらにありますけれども、有資格者、保育士、看護師、保健師、助産師、幼稚園の先生、または子育て経験のある方で、プラス、コミュニケーション力がしっかりあって、説教をしにいくわけはありませんので、しっかりとお悩みを聞き取れる、そして、「大丈夫かな？」とピッと気づいていただいたら、私たちの専門職、保健師ですとか子ども家庭支援センターとも連携しますので、そうしたピッと気づいていただけるような方、そうした方々に研修を行いまして、できるだけ同じ方が同じお家に毎月行けるように取り組んでいきたいと思っております。

次の事業になりますけれども、今度は定期預かりでございます。

毎回予約をする一時預かりというのもやっていますけれども、これは毎週水曜日の午後とか、木曜日の朝から夕方までといったように、定期的にあらかじめ予約を入れられるものでございます。各園にご協力を呼びかけましたところ、こちらの5園で枠を作っていたきまして、募集しましたところ、26枠分のところに55名の方から、お申し込みをいただきました。その時にですね、ちょっと人気のところは抽選もあったと思いますけれども、面接を行ったり、各園でしていただきまして、今23名のご家庭にご利用をいただいております。早い方はもう11月16日からお預かりをしております。

今後はですね、利用者のお声、また施設のお声などを聞きますとともに、来年度から国の「こども誰でも通園制度」が始まりますので、そこがまだはっきり、詳しい状況がわかっていないんですけれども、国がどこまでやってくれるのかを見ながら、来年度の私たちの「子どもつながる定期預かり事業」の実施規模などを決めていきたいと思っております。

ちなみにさっき申し上げました「一時預かり事業」はこちらの28ヶ所でやっております。去年は7,300件ご利用いただきました。今年も9月までの半年で3,500件ご利用いただいております。

何か急にご予定ができた、あるいはリフレッシュしたいなどいろんな理由があるかと思っておりますけれども、ご予約いただいて、お子様をお預かりしております。

区立保育園の場合は1ヶ月前からご予約をいただいております。これも非常に便利なんですけれども、一方で肝心の時に予約が取れないとか、毎回毎回予約しなきゃいけないというところで、ちょっと使いづらいという面もあるのかもしれない。

一方、定期預かりはさっき申し上げたように、毎週水曜日の9時から夕方まで、あるいは木曜日の午後ということで、定期的な予約がずっと取れますので、お母さんにとっても来週の木曜日はここに行こうとか、再来週はお友達と会おうとか、予定が立てやすいという意味でも、非常に精神的にも良いのではないかと考えているところでございます。

次は、としま子ども会議です。

これも度々説明しておりますけれど、今回は初めて子どもたちにリターンする報告会を行うことにしました。これは前回もご説明したと思いますけれど、8月に議場をお借りしまして、子どもたちから区政に対するいろんな提案を受けております。

子どもの権利について動画で周知したらいいんじゃないとか、子ども向けのホームページを作成したらいいんじゃないとか、障害者への理解っていうのは体験してみないとわからないねとか、いろんなご提案を受けておりますけれども、今年は今月21日に、やはり同じ議場をお借りしまして、夏にご提案いただいた子どもたちからのお声を区でどういうふうに検討して、どういうふうに反映するのかということ、所管課長が責任を持ってお答えします。まだ、どこまでお答えできるのかについて聞いていませんので、もうちょっとやらなければという、駄目出しもこれからあるかもしれませんが、今、考えております。

これまでも頂いたお声はいろんなところで反映していたんですけども、形としては、提案を聞きっぱなしになっていました。これにしっかりお返ししたいなという思いでやります。どうなるかは所管がどこまで真面目に考えているか、課長の力量もあると思いますけれども、子どもたちががっかりしないような、しっかりとしたお答えができるように思っているところでございます。

次はちょっと変わらしまして、すずらんスマイルプロジェクトでござります。

すずらんスマイルプロジェクトは4つの部会を設けてやっているんですけども、先日各部会からこの1年間の活動報告を聞きましたら、ちょっと私も感慨深くなってしまふほどのすごく一生懸命やってくれていたのも、また機会を設けてご報告したいと思っております。

今日はその中でも、「としま街なかすずらんサポーター」制度っていうのを始めますというご報告でござります。これはもう12月よりスタートしております。

すずらんはコロナ禍の中で孤立しちゃう女の子、どこにもつながれていないような女の子たちの自殺が増えているという危機感の中でスタートしました。当初は私をトップに10名でスタートしましたが、今は67名、全庁横断で私をトップに新入職員まで67名で活動をしています。

今までも若年女性に対しては、私たちが遅まきながら活動を始めましたし、前からいろんな支援団体が地域で活動をされていた、また、企業でも何かできないかということで取り組みをされている方もいました。それを今後は、もっと女の子たちを囲む輪を作って、みんなでつながって応援したいということで、このすずらんサポーターになってくださいというようなものを始めようと思っております。

10月にすずらん・ネット会議を立ち上げました。民間団体の方に多く来ていただき、私たちも関係する全ての部署が並びまして、行政と民間団体がしっかり連携して女の子たちの支援をやっていこうという、すずらん・ネット会議っていうのを立ち上げたんですけども、それをベースにもっと輪を広げていこう、企業や事業者、地域の方、学校、そして区民の方、区民の方からもいろんなことやりたいというお声もありますので、みんなを巻き込んで、みんながサポーターになって、女の子たちを支えていこう。何かの時はお声をかけられるような、そういうチームすずらんで臨んでいこうという覚悟を込めまして、サポーター登録書をお渡ししたいと思っています。

このサポーターの皆さまには、私たちのプロジェクトの周知ですとか、それからこういう支援情報があるよという発信をしていただく、あるいは何か困っている方がいるなっていうときは、お声かけできるような、あるいは支援先をご案内いただけるようなお取り組み、また団体や企業で可能であれば女の子たちの居場所を、どんな形の居場所ができるかをご検討いただいたり、女の子たちに寄付できるものを、お渡しできるものをご寄付いただいたり、いろんな活動があると思いますけれども、より輪を大きくしながら活動していきたいと思っています。

すずらんの活動では、私は本当につながりが核だと思っていまして、大学と企業との連携は個々に進めております。2つご紹介をしたいと思っています。

まずこれは、すずらんの若手メンバーが中心でやってくれました。帝京平成大学の心理学を学んでいる女子学生とタッグを組みました。まさに当事者世代の学生に、こういうやり方だったら女の子たちに伝わるのではないかというアイデアをいただいて、区内の居場所ってこんなところあるよ、行ってみたらこうだったよっていう動画を作ってくれたりですね、レポートしてくれたり、そしてここにPMSとありますけど、月経前症候群、生理の前に精神的にも不安定になるっていう、そうしたことに関する情報提供ですとか、連携した出展ブースを出しまして、146人の方にご来場いただいております。

また右側ですね、西口公園のグローバルリングの脇にカフェがあります。そのグローバルリングカフェとコラボしまして、すずらんのキャンペーンをやっています。10月から12月にかけて、グローバルリングカフェで「ウーマンインコーヒー」っていう取り組みをしているんです。プロントさんがやっていますけれども、イタリアで最古のコーヒーブランドの取り組みなんですけど、このピンクのカプチーノを期間限定で販売していますけれども、そこでそれを買えばコーヒー生産に携わっている小さいコーヒー農場、海外ですけど、小さいコーヒー農場で働いている貧困の女性に支援がつながるといような取り組み

を、これは以前からやられているんですけれども、これを今回プロントさんがご自身のところを使って取り組まれるということで、そこにすずらんがコラボしました。

コーヒーの画像がありますけれど、このコーヒーの持つところに熱くないようにカップスリーブがありますけど、そこにすずらんのロゴマークが入っております。グローバルリングカフェで、女の子がかわいいなと思うピンクのカプチーノを買っていただいた時に、すずらんがこういうことをやっているよとPRしていただくご協力をいただきまして、一緒にやらせていただいております。このように若い女の子たちがいる大学、それから女の子が行くんだらうなって思うようなおしゃれなところ、あるいは若い人たちが遊びに行くようなところ、そうしたところでぜひ大学・企業と連携してやっていきたい。いくら私たちが発信しても当事者に刺さらないと何の意味もないので、できるだけ当事者の子に届くような、そうした取り組みをしていきたいと思っております。

次がですね、今回お知らせしたい中の大きなものの一つでございます。

ふるさと納税の返礼品にですね、豊島区は今コスプレを頑張っておりますので、コスプレ体験を返礼品に加えます。1月下旬からスタートしたいと思っております。

コスプレ体験と、acosta!というイベントですね、ご存知でしょうか？毎月サンシャインシティでやっています土日、先週末もやっていたけど、2日で1万人が来るっていう本場に日本最大のコスプレイベントを毎月やっています。人気があり、チケットが買えないってということもあるんですけれど、そのチケットの回数券、自らコスプレする体験とacosta!に参加する回数券という二つを、まずはコスプレ関係の返礼品のスタートにしたいと思っております。

具体的には次のページをご覧ください。ちょっとこっちは字が小さいんですけど、コスプレ体験は2つご用意しております。まずコスプレ体験のプラチナプランはですね、私もこの間コスプレしましたけれども、プロの方がメイクをして、ヘアメイクもしてもらいましたけれども、同じようにプロのメイクアップアーティストがメイクをしてくれ、そしてプロのカメラマンが撮影をしてくれます。そしてそのデータはプロのレタッチャーですかね、補正したり綺麗にしてくれるプロの方のレタッチャーで加工したものを、お写真とデータでプレゼントします。

それから着るコスチュームとか、ウィッグはですね、もう好きなものを言ってくださいということで、自分の好きなこのキャラクターになりたいというのを言っていただくとそれを用意します。そして、この日に行きたいと、ご指定いただいたacosta!にご参加をいた

できます。ご参加いただく時は、普通はもうたくさんの方が並んだりするんですけれども、優先的にぱっと入れるようにVIP対応をしたいと思っています。

もう一つのゴールドプランですけれども、これ基本的にパッケージとしては同じなんですけれども、コスチュームやウィッグはご提供するリストの中から、これとこれって選んで欲しいと思っています。60種ぐらいありますので、かなり選べると思います。60の中からこのキャラクターっていうのを選んでいただければ、コスチュームとウィッグをご用意いたします。

そしてacosta!についてはですね、できるだけご希望に寄り添えればと思っていますけれども、こちらの方で指定する日にご参加いただくというものです。

そしてacosta!参加権、これは自分でコスプレをして参加をいただくことになるんですけれども、本当に人気があって、チケットが売り切れちゃうということのようです。ご存知の方も多いかもしれませんが、コスプレしたままご飯を食べたり、買い物したりしていいよとか、あと、コスプレした人がこの参加証を持って行くと、池袋の中でいろんな企業にご協力いただいております、見せると買い物が割引でできるとか、写真撮るスタジオも安く入れるとか、いろんなサービスがついていて非常に人気なんですけれども、こちらはですね、回数券2枚・4枚・6枚っていうことで、好きな方は毎月いらしてるようなんですけれども、こちらの3種類の回数券です。

それともう一つはサンシャインシティプリンスホテルさんにご協力をしまして、宿泊もついている、この場合は多分、土日フルに使うと思いますけれども、お泊りいただいて、どこで着替えようかしらなんてこともご心配なくホテルで着替えていただいて、帰ってきて、また翌日の朝から行くというこの1泊2日と、acosta!の2日フルに楽しんでいただけるチケットを組み合わせたものをご用意しております。

次のページはですね、今やってるものを合わせて状況報告したいと思います。12月から私たちのふるさと納税の返礼品というのを決めましたけれども、スタートは豊島区の宝である伝統工芸品から始めました。

伝統工芸士の9名の方にご協力をいただきまして、46品揃えております。直近で確認いたしましたところ、4件ご寄付をいただいております、例えばべっ甲の耳かきとかですね、こっちにもありますけど、友禅のポケットティッシュ入れとかですね、お送りをしていると聞いております。

ちょっと自慢で、下にも掲載してしまいましたけれども、豊島区の伝統工芸士の皆さまは本当にもう超スーパーで、これ今年だけでも4名の方と、それから保存会自体も大変な

賞を受賞されています。この方たちに作っていただいた伝統工芸品をお送りしたいと思っています。

なので、昔からずっと受け継がれてきた大事な宝物と、それから新しい分野でのコスプレということで、両輪でやってまいります。

コスプレももっといろいろなバージョンがあるんじゃないかと考えていますので、メニューももうちょっと増やせればなと思いますけれども、まずは1月の下旬から先ほど申し上げたプランでスタートしたいと思います。

次になりますが、こちらもご取材いただいた記者の方もおられるかもしれません。トキワ荘の目の前にサロンを作りました。空き家を活用したサロンでございます。トキワ荘公園の目の前にあります。

1階が、飲食、それからマンガのいろんなグッズを売っていますし、マンガがいっぱいあって、コーヒー飲みながらマンガを自由に読めるスペースで、すごい素敵です。そして2階は区の情報発信スペースになっております。詳しくは次のページでご説明します。

このサロンをつくった背景なんですけど、南長崎エリアにトキワ荘ができましたけれど、トキワ荘だけで終わってはいけません。そこにお休み処があったり、昭和レトロ館も作りたけれども、あそこは面で皆さんに楽しんでいただけるようにしていきたいということを高野前区長もずっとおっしゃっていましたが、私も全く同じに思っております。

今回サロンができましたので、トキワ荘商店街にありますいくつもの施設を通じて、エリア全体を盛り上げていきたいと思っています。今までは、昭和レトロ館を作ったりしてきましたけれども、お茶を飲む場所があんまりないんですよ。

トキワ荘も、ちょっと自慢ですけど、この間まで「よつぱと！」というのをやりました。あれが10回目の企画展だったんですけども、過去最高で2万1000人を超す皆さまにご来場いただきました。

普通はお友達と来ると、良かったねっていいながら、帰りにお茶を飲んで語りたところなんですけど、お茶を飲むところがなかなかなくてですね、なんかこうみんなが集える場所ができないかっていうこと、それとですね、以前からトキワ荘の商店街では登米市っていう石ノ森章太郎先生の生まれたところですけども、その登米市と連携して何かやりたいねってということで、いろんな話をしていました。

そんなこともありまして、1階ではトキワ荘に行った後にお茶を飲んでもらったり、みんな楽しく軽食なんか食べてもらったり、コミュニティの場として使うんですけども、2階はそのトキワ荘のゆかりの自治体ともっと交流できないかということで、色々あるんですよ。宝塚市は手塚治虫先生の記念館もありますし、氷見市は潮風ギャラリーといって、藤子不二雄A先生の関係のギャラリーもありますし、石ノ森先生の記念館があるところもあります。今行っていただきますと、2階にはそうした記念館ですとか、もっと言いますとそこの自治体の観光マップがあったり、ちょっとなんか手塚治虫記念館行ってみたいわと思ってもらえるような、交流都市のPRの情報コーナーを設けています。

また、今後の予定ですが、これは担当といろいろイメージを出しながらこれから企画をしていきますけれども、例えば手塚治虫先生のファンクラブの会長さんは、世の中で一番手塚治虫先生の裏話を知ってるんじゃないかってくらい、やはりめっちゃめっちゃ情報を持ってらっしゃるっていう話を聞いたことがあります。

例えばそういう方にお越しいただいて、ミニセミナーか、トークイベントなんかして、知る人ぞ知る情報をお好きな人たちが質問したり、お話を聞いたりっていうようなこともやってみたいと思いますし、また、場合によってはですね、1階で調理もできますので、このゆかりの地の名産をちょっと作って、食べてもらおうかなっていうイベントもできるかもしれませんし、物産展みたいなのもできるかもしれませんし、そんないろんな使い方があるんじゃないかなと思っています。

また、近隣の皆さまにもコミュニティの場所として大いに使っていただきたいなと思っています。ものすごく素敵にできております。空き家のときも見ていますし、そんなにめちゃくちゃ大きい場所でもないの、どうかしらと思っていたんですけど、オープン前に見に行って、もうワーッっていうくらいですね、すごく素敵な場所なのでぜひ一度お運びいただくと嬉しいなと思います。

そして、私たちからの取り組み事業の紹介の最後は、年末特別警戒でございます。

コロナが5類に移行されて初めての年末ということなので、昨年よりも多くの方が区内の繁華街を訪れるんじゃないかということで、特別警戒の活動を行います。

期間は12月15日から28日で、警視庁の年末盛り場一斉対策期間というところに合わせて行います。区独自の年末の体制ということになります。

区内警察署、町会、商店街ボランティアの皆さまと一緒にいきます。環境浄化パトロールは西口などでやっておりますけれども、それをこの期間に8回行います。

池袋の他、大塚駅、巣鴨駅の駅周辺で行います。池袋西口は明日やります。明日の夕方からやりますけれども、私も冒頭参ります。大体60名を超すんじゃないかということで、大変な規模になると思いますけども一斉に呼びかけをしながら、悪質な客引きですとか、路上スカウト行為の集中取り締まりもあわせて行う予定でございます。

官民連携による安全・安心なまちは、豊島区の強みでございますので、年末についても気合いを入れてやりたいと思っております。

最後3件ほど事業のご報告・PRをしたいと思います。

1つ目はこれも多くの皆さまに、オープニングのときに来ていただきましたけれども、トキワ荘の企画展で石ノ森、赤塚両巨匠の企画展をやっております。

知らない人がいないお二人じゃないかと思っておりますけれども、実はトキワ荘でも一緒に住まわれていましたけれども、その前からもう40年以上大親友だったということで、本当に若いときからいかに切磋琢磨して、巨匠になるまでもいろんなことを一緒にやられてきたかと。そんな繋がりを基軸においた初めての企画展になりますので、ぜひご覧ください。

そして次はですね、今週末土曜日に、本庁舎1階のセンタースクエアで実施するエコライフフェア。民間事業者の方、地域団体の皆さまと一緒にいろんなブースを出します。4年ぶりに行います。

私たちがゼロカーボン戦略を出していますので、環境に優しいどんなことができるのか、いろんなご提案をしたいと思います。

この中ではですね、今年姉妹提携40周年の秩父市さんにも来ていただきまして、秩父産材を使った木の宝石作りのワークショップもします。そして先月には、私の出身でございますサントリーと環境包括連携協定を締結しました。そのサントリーにも来てもらいまして、ペットボトルのリサイクルボトルtoボトルの展示や、正しい分別方法のレクチャーなど、盛りだくさんになっております。ぜひこちらもお運びいただけると嬉しいです。

最後はですね「はたちのつどい」です。1月8日に「はたちのつどい」を行います。

元日テレのアナウンサーで今は日テレ学院学院長として大活躍の豊田純子さんに、4回目になりますが、司会をしていただきます。

そして今回は、公募で8名のはたちの方々に手を挙げていただきまして、企画を全部やっていたいただきました。

この方たちの企画で、実際の進行はどうしたらいいかということは、この間豊田さんにもこの役所に来ていただきまして、直接はたちの当事者の企画メンバーがレクチャーを受けていましたけれども、張り切ってやっていきますので楽しみにしていただけたらと思います。

具体的にはですね、今年はたちの子たちっていうのは、高校時代に合唱コンクールがコロナで中止になっちゃったとか、そういう世代です。なので、みんなで歌う喜びを込めて全員合唱すると聞いております。ピアノ伴奏も検討会のメンバーが行います。それから母校を訪ねて先生方へのインタビューとか、いろんな企画があると聞いてますので、私も楽しみにしております。

それから初めての企画なんですけれども、会場の目の前の中池袋公園で、ビックカメラさんに、「二十歳記念撮影会」というのをやっていただきます。写真を撮っていただいて、その場で写真とデータをプレゼントします。

それから最後にご報告なんですけど、すずらんスマイルプロジェクトと組みまして晴れ着プロジェクトをやりました。生活困窮の方などで、晴れ着が用意できないため、成人式に行きたいけど行けないという方にお着物の貸し出しと着付けを応援しますということでやりました。結果ですね、男性お1人、女性3名、計4名の方からお申し込みがありまして、4名の方は今週あたり、どの着物がいいか選んでいただいているところだと思いますけれども、4名の方を応援したいと思っております。車椅子の方でも大丈夫ですよご案内してましたけど、今年は申し込みはなかった状況です。

長くなりましたけれども、私からのご報告は以上でございます。

どうもありがとうございます。

【質疑応答】

朝日新聞

ふるさと納税の返礼品について、新しいメニュー追加されたということなんですけど、これについての区長の期待を一言いただければと。

高際区長

私ですね、これは絶対やりたいと思ってたんですね。

これも選挙で回ったときに、中学生だったかしら、話しかけられました。

私も1年前はキングダムの『羌カイ』をやったんですよ。それを覚えてくださってるお子さんがいて、「羌カイやりましたよね。カッコいいですよ。アニメイトさんもあるし、私もコスプレやってみたいんです」と。「もしプロの人が洋服を着せてくれて、メイクとかしてくれるんだったら、私15万ぐらい出してもいいです」ってその女の子が言っていたんですよ。

それで、確かにそうかと思って。ふるさと納税にはいろんな返礼品がありますよね。全国的にはやっぱりお肉とかお魚とか、シャインマスカットとかそういうのが人気らしいですけど、豊島区はそういうのは残念ながらないんですけど、豊島区の魅力はなんだろうということで、まずは伝統工芸でいきましたけれども、その女の子のコスプレの発言はズット心に残っていました。自分でコスプレを初めてやるときに、どこに頼んでいいかわからないし、自分で化粧するのもわからないし、身一つでいったら全部プロがやってくれるっていうのは、私だったら確かにやりたいかもしれないなと思ひまして、始めることにしました。

アニメイトさんですとかそれから先ほどありましたハコスタさんのご協力をいただきまして、やりたいという思いはあったけれどもなかなか実際のプランでいくらにするかっていうところまでくるのは大変だったんですけども、担当も頑張ってくれまして、スタートいたします。なので、非常に期待しております。

毎日新聞

「はたちのつどい」なんですけども、昨年までは2部制で行っていたと思うんですけども、今回はコロナ前に戻るということなのか、戻るということであれば、期待する点をお願いします。

高際区長

去年までは2部に分かれて実施してきました。この地域は1回目、この地域は2回目ということでやっていたんですけども、今年はもう全地域でやります。自分が当事者だったら、やっぱり大人数でいろんな人たちと一緒に祝いしたいなと思うんじゃないかなと思うので、楽しみにしてもらっていると思います。

皆さんがいっぺんにいらっしゃると中池袋公園が大変な賑わいになると思いますので、そこは混乱のないように、私たちも気を引き締めてかつ楽しい素敵な式典になるようにしたいと思っています。

NHK

区民による事業提案制度について、まず投票の結果として公園に日陰を作ってほしいというのが、声として一番多かったことについての受け止め、意外性も含めると、合わせて、これがやっぱり一番多く支持を集めた理由について、区長としてどのような背景があり、理由があるというふうにお感じになっているかを教えていただければと思います。

高際区長

はい。私もですね、ちょっとびっくりしたんですね。163ヶ所すべてを見に行けていないので、「日陰ないんだっけ?」と思いました。

担当に聞きましたが、やっぱり豊島区は小さいので、公園も結構小さいところが多くて、鉄筋の何かを作って上に葦簣^{よしず}かなにかやるようなものを例えば作るとすると人にぶつかってしまうとか、走れなくなってしまうとかいろんな条件があり、その条件がなかなか難しく、残念ながらできてないところもあると聞きました。

また、今年の夏は異常に暑かったので、本当に暑いときは外で遊ばせませんが、それでもコロナ禍も明けたし、少しでも遊びたいという時に、逃げ場がないというのが切実な思いではないかと思いました。ちっちゃい子を遊ばせているお母さんとか、また、散歩に行ったときにちょっと休みたいなっていう高齢者の方とか、地域の方、たくさんいらっしやいますけれども、やはり「ちょっと逃げ場を作ってよ」というお声はあるんだろうなと思います。

どのくらいできるかということはこれからなんですけどね、大きい公園ではしっかりやっていきたいと思っていますし、小さい公園でも何か工夫ができないかとか、163ヶ所を来年度は全部見に行きたいと思っていますので、ここならこういうのができるかなとか、ここはちょっと難しいからお隣の公園に逃げてもらおうかなとかを含めて、全体として見ていきたいと思っています。

TOKYO MX

ふるさと納税の返礼品の件なんですけれども、今回コスプレ体験の寄付額がプラチナだと53万、ゴールドプラン20万ということで、結構ふるさと納税やられる方って自分が控除になる額を限界としてやるっていう方が多いと思うんですけど、53万となると大体2000万以上の給料がないととか、そういう金額になるのかなと思うんですけども、こういう高額のものですけれども、こういった方に利用をしてもらいたいというか、対象となるのはこういった方なのか、そういった点お聞かせいただければと思います。

高際区長

はい、値段設定は非常に難しくてですね、「1日区長体験100万円」とかいう自治体もあるようなので、どういう設定がいいかと考えたんですけども、まず、コスプレ体験を自分でバンバンできる人っていうのは出さないっていう、多分初めてやってみたいっていう方がお申し込みいただくのかなと思っているので、そのときにちょっとお金はかかるけど、プロの方にフルでやってもらえるんだったら、1回やってみようかなとか、あるいは何かの記念日にご夫婦2人でとか、カップルで思い出にやってみようかなとかそんなイメージを私は思っております。

豊島新聞

高際区政の特色というか、すごく変わったところは、子育て支援と、女の子支援だと思うんですけども、それに対しての改めてその決意というか、思いを語ってもらえれば。それと、小池都知事とはお話し合いとかしながらやっているのでしょうか。

高際区長

私自分はおばあちゃんっ子なので、高齢者支援も絶対忘れてはいないんですけど、子育て支援もそうですけど、子どもや若者、女性というこれまであまり区と近くなく、声が届いていないと私は思っているので、その方たちの声をしっかり聞きたいという思いがずっとあります。

なので、子育て支援自体はですね、切れ目なく応援したいよって気持ちもあるし、今日もご紹介したように、いろんな子育て支援をやっていますけれども、特に子どもが何を求めているかという、子どもたちが何をしてほしい、あるいは何をしたいと思っているのかということ併せてしっかり聞きたいと思っています。

なので、どうできるかですけれども、昨日は未来としまミーティングで親の話を聞きましたけれども、子どもの話も聞いてみたいと思っていますし、あるいはそのちょっと大きくなって、この間まで小学校・中学校に通っていて、卒業した層の人に、「自分が小学生・中学生だったときに、こういうことができたら本当は良かったんだけど」とかいう話も聞いてみたいと思っています。

女の子は役所なんか全然相手にしていないですし、役所に支援を求めるとか全然思っていないと思うし、私たち役所の方も生きづらい女の子たちに何か支援するなんてこれまで思ってこなかったと思うので、初つながりだと思っているので、そこはもう力を入れております。

知事とはもう別自治体ですので、環境とかいろんなことで連携していく場合もあると思うんですけども、子どもとか女の子支援等々、あるいは今日ご報告したようなことについてはお話をしておりません。が、また連携をしっかりとしていきたいと思っています。

都政新報社

アバターコンシェルジュについて伺いたいのですが、こちらの相談員の方はどなたになるのかっていうのと、今回一時保護所に設置されると思うのですが、受けた相談っていうのは一時保護所の職員とかにも共有されるのかっていうことを、お願いします。

高際区長

はい。相談員はですね、子ども若者課に子ども若者ワーカーという専門員がおります。その方にやってもらうということを思っています。それとアバターに相談したことの共有については、今は子ども権利相談室でやっています。一時保護所に入っている子どもから電話とかで連絡できるようになっている、あるいは、電話が難しいのであれば、子ども権利相談室の相談員が定期的に一時保護所を訪問して、子どもの話を聞くことにしているんですね。

というのは、あってはならないことですが、一時保護所で子どもの権利侵害があった場合に、その相談のときに当然一時保護所の職員は同席しませんし、場合によっては権利侵害のようなことがあったら、別途権利相談のチームが権利擁護委員とも相談しながら職員への聞き取りもしますので、第三者機関という立場で相談に応じることになります。

日本経済新聞

先日の江東区長選挙で、元都庁職員の大久保さんが区長に選ばれました。その選挙期間の中でも小池都知事と一緒に応援演説に入られていらっしゃいましたが、改めて元同僚ということで、区長になられたということで、何かアドバイスではないですけど、伝えたいこと、今まで伝えてこられたものがあるかなと思いますけれども、今改めて伝えたいことがあれば教えていただければと思います。

高際区長

初日と最終日に知事から応援してねというようなお話がありました。大久保さんは私が知事室の秘書部長だったときに、特別秘書の担当課長をされていて、直属の部下でございましたので、2年間上司・部下の関係で働いておりました。大きい意味では知事室の中で一緒におりましたのでということと、行政出身で出馬にチャレンジするということと、同じ女性ということもあって、応援にというような依頼だったのだと思います。

江東区は江東区で、本当に大変な状況でのチェンジになりましたので、これからご苦労も多いかと思います。本人もですね、区民の声をしっかり聞きたいというようなことをおっしゃっていましたので、そこは私も本当に一番の肝は区民の声をいかに直接しっかり聞くかというふうに思っているんで、そこは大久保さんもその気持ちを忘れずに、真摯に向き合ってもらいたいなというふうに、元上司からは思います。

読売新聞

そごう西武の池袋本店のことでお伺いしたいのですが、これから進められるかもしれませんが、現時点での計画ですとか、フロアをどうするのかの説明がなされていなくてですね、住民の方とか地元の団体の方とかにはあるかなと思うのかもけれども、区長として現時点で何も説明がないことへの受け止め、もし仮になんらかの説明があったのであればどういった話をしたのか教えてください。

高際区長

具体的なプランっていうご説明は、今時点ではありません。一方、前回も申し上げたかもしれませんが、11月8日に池袋駅周辺地域再生委員会というのがあって、関わりのある企業さんがみんな参加されて、こちらから今こんなことを考えて進めていますと説明をしたときには、ヨドバシホールディングスさんもいらっしゃって、他の皆さまと一緒にござ

解ということで、まちづくりという観点ではもうメンバーにしっかり入っていただいたと思っております。

具体的なフロアプランっていうのは多分そんなにすぐにできるものじゃないようにも思いますし、いろんなテナントさんとの交渉なんかもあるでしょうから、そこは早く決めてということという立場だとは思っていません。

私たちがそしてまちの方たちも一番心配していたのは、これから西口を皮切りに池袋駅前の再開発が始まるので、池袋そして豊島区をより盛り上げる仲間になってほしいと、一緒に考えてほしいということをお求めておりましたので、そういう意味では私は安心していきます。

またしかるべき時期にご報告もあるでしょうし、またまち作りの観点からそうした再生委員会なんかもございますので、そういうところでの状況の共有ですとか、一緒にやっついこうというのが共有できると思いますので、そうした進み具合の上での不安は持ってないという状況です。

※テキスト版については読みやすさを考慮し、重複した言葉づかいや言い直しなどを整理しています。

(テキスト版文責 政策経営部広報課)